



# Marutomi World



- Home
- 会社案内
- 会社概要
- ご案内
- 製品情報
- 新着情報
- リンク
- E-Mail

## マルトミです

10. 11月号 (隔月刊)

日ごろのご愛顧に心より御礼申し上げます。

### お知らせ

☆ 店舗ショールームでは**除雪機**の展示を始めました。ホンダの除雪機については、ほぼ全機種がご覧いただけます。その他にも人気の**モキ「薪ストーブ」**や**「焚き火どんどん」**、また、**ハスクバーナーの超低価格チェンソー137**(36.3cc バ-35cm.特別キャンペーン価格29,800円)なども展示してありますのでどうかお出かけ下さい。

☆ **除雪機 & モキの薪ストーブ・焚き火どんどん & ヤンマー クローラトラクタ 展示商談会**を10月24日(土)・25日(日)に開催します。除雪機はホンダ・ヤンマー・ヤナセの最新型機を豊富に展示し、人気のモキ製「薪ストーブ」・「焚き火どんどん」も各種の展示はもちろん、メーカーの担当者が詳しい説明と実演を行います。ヤンマーのクローラトラクタも各種展示して、皆様のご来店を心よりお待ちしております。

もちろん商談会前のご相談も大歓迎ですので、ぜひよろしく願いいたします。



### マルトミカレンダー ( 10月 ~ 12月) 赤色は休業日

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31		
25	26	27	28	29	30	31	29	30												

※ 24・25 展示商談会

※ 12/30~1/4 正月休業



[info@maru-takada.com](mailto:info@maru-takada.com)

## 除雪機の点検はお早めに

また今年も冬のシーズンが近づいてきました。

上越ではここ3年小雪が続き、山間地を除き除雪機の出番はあまりありませんでした。除雪機を使わずにすむのは良いことではありますが、一方でこうした機械類は、使われない期間が長くなるほどバッテリーあがりやキャブレターの詰まりなどトラブルが発生しやすくなります。いざというとき快適に作業が行えるよう、まずは早めの点検をおすすめします。点検の際のとくに大事なポイントをあげておきますのでご参考にしてください。なお、詳しくは取扱説明書をご覧ください。



### ① オイルはきちんと入っていますか。

とくにエンジンオイルの量が少なかったり汚れていたりすると重大なトラブルの原因になります。エンジンをかける前には必ずエンジンオイルの確認をお願いします。

### ② バッテリーがあがっていませんか

始動のスイッチを入れてみて、セルモーターが回らなかったり、回転の力が弱くエンジンがかかりにくいようなときは、バッテリーがあがっていることが考えられます。その場合は液量が不足していないか確認した上で充電をしてください。

### ③ 古い燃料が入っていませんか。

燃料タンクやキャブレター内に古いガソリンが入ったまま長く放置されると、キャブ

レターのつまりの原因となります。始動のスイッチを入れてみて、バッテリーは十分あるのにエンジンがかからなかったり、かかってもエンジン音が波打つようなときはキャブレターが詰まっていることが考えられます。その場合は修理が必要ですので、こちらまでご連絡をお願いします。

※ 点検の方法などで何かご不明の点がありましたらどうかお気軽におたずね下さい。

☆ **ただいま当社では除雪機の時期前点検を実施中です。ぜひご利用ください。**

## 耕うん機・草刈機などの長期格納前のお手入れについて

除雪機とは反対に、シーズンを終えてもうしばらくは使わない耕うん機や草刈機などは、長期格納の前に簡単なお手入れが必要です。とくに、燃料を完全に抜いておくことと、さびやすい部分には注油しておくことが大切で、それさえしておけば翌シーズンもたいていはトラブルなく快適にご使用いただけます。



### 特別寄稿

## 災害に備えて

上越市防災士会

会長 横尾 彰平

昔から怖いものの例えとして“地震、雷、火事、親父”と言われてきましたが、その中でも“親父”の怖さは歳をとった今でも怖さが懐かしさとなって事ある毎に懐かしい思い出として語り草となっております。その他の自然災害の怖さは周知の如く、一瞬にして最愛の肉親の命を奪い、傷つけて生涯忘れることの出来ない不幸で悲惨な傷跡として私達を悲しみに誘い苦しめます。そのような悲惨な自然災害を予知して被害を完全に防ぐ事は災害によっては不可能に近く、私達は自らが常日頃から目に見えない自然災害に備えて少しでも犠牲を少なくする努力をしなければなりません。私達防災士はまず自らの命を守ることを心がけなければなりません、何故なら私達は自らの命を助け、家族を助け、近隣の人々を助けるなどして公の救援を得るまでの時間に多くの人々を助けるという使命を帯びています。そして公の救援隊の到着と同時に救援隊と協力して救援活動に入ります。

予知不能と言ってよい自然災害の一つに地震がありますが、地震は家屋倒壊の他に土砂災害等にも通じる最も身近な自然災害としてこの度は地震災害についての備えに触れてみることにします。については事前に備えることとして私達にできることは、

1. 家屋の倒壊を防ぐ為に家屋の耐震診断による補強
2. 家具の倒壊を防ぐ対策
3. 避難口の確保

4. 避難時に持ち出す物の準備（貴重品、常備薬、非常食等）
5. なるべく高いところに物を置かない
6. 避難場所へのルート周知
7. 避難先を張り紙等で知らせる

等々いろいろありますが、これは家族で相談して家族皆が周知していることが必要です。それでは地震がきたときは、①**まず自分の身の安全を** ②**火の始末を** ③**閉じこめられないように避難口へ** ④**落下物に注意** ⑤**外にも危険物があることを認識** ⑥**崖崩れや津波に注意** ⑦**情報を入手** ⑧**みんなで助け合う、**等が基本的に注意することです。

日本は国土の7割が山地で断層が多く複雑な地質のため崩れやすい国土、また梅雨、台風等がもたらす豪雨は世界有数、世界の約2割の地震が分布、世界の約1割、108の活火山が分布している等災害の多い国であることを私達は十分認識しながら備える必要があります。

横尾 彰平さんは、災害の発生時に地域の中で避難活動等に貢献できる人材を養成することを目的に平成18年に設立され現在330余名が登録されている上越市防災士会の会長を務めておられます。また、洋画(市展で2年連続入賞)や合唱など、趣味の分野でも幅広く活躍されています。今回、当社の長年のお客様でもある横尾さんに、お忙しい中、防災のポイント等について御寄稿戴きました。



## 上越の面白い生き物 59..

### リンドウ 草紅葉の中の青い星

時は晩秋、枯葉が舞い、霜が降りる季節です。

小春日和に誘われて山沿いの道を歩いていると、日増しに濃くなる草紅葉のなかから青紫色の花を着けているリンドウに出会ってたまらなく嬉しい気分になることがあります。秋の七草にこそ漏れたとはいえ、代表的な秋の草花リンドウ、道端の一度刈り払われた後に成長した株などでは、初冬になって咲くものも見かけます。花屋さんには7月ごろから店頭に並びますが、これは日照や温度など調節して作ったもの、エゾリンドウという種類から改良されたものだそうです。花も大きく、立派ですが「作りもの」の感じは否めません。リンドウの仲間は種類が多く、日本だけでも20種類ほど記録されています。高山や限られた土地に分布するものが多い中で、リンドウ、エゾリンドウなどが広く見られる種類といえます。花の色も青色系が大半ですが、うすい黄色を帯びたもの、白いものなどさまざままで、春に花が咲くハルリンドウ、フデリンドウといった種類もあります。



不思議に思ったのは、目に付く花でありながら、方言の意外に少ないことです。植物方言の本にあたってみますと、筒型の花をヒョウタンやタゴ（桶）に見立てたものが和歌山県を中心に記録されているのが目立つ程度、全国的には大変少ないとの感じを受けました。このような場合二つの例が考えられます。ひとつは移入されて日が浅く名前がつけられるにいたっていない場合。もうひとつは反対に古くから標準の名前が普及し世間に広く流布している場合です。「出雲国風土記」というとんでもなく古い書物に産物として出てくる本種の場合は、おそらく後のほうの理由ではないでしょうか。リンドウの名はもともと漢名「竜胆」の音読みでリウダンがリンドウに変化したものとされています。漢字が示すように根に苦味成分を含み健胃整腸の目的で薬用にされ、平安時代に書かれた「本草和名」という薬草名の解説本にも載っていますが、そこにわが国古来の呼称として、エヤミグサ、ニガクサの名前があるのも興味をそそります。当初は薬としての関心が主だったリンドウですが、それから80年後の紫式部や清少納言の活躍したころには、もう花の美しさを賞でて庭や、まがきに植えられるようになっていたようです。清少納言がリンドウを深く愛したであろうことは、枕草子に書かれた文章にはっきりと表れており、日本には1000年も前から続く花の文化があるということは真に世界に誇るべきことではないかと思えます。(ハ)